

研究所だより

教育三笠

第224号

萱野中学校

発行／三笠市教育研究所

- 岡山萱野小中一貫教育の概要
- 三笠中学校・岡山小学校 地域科実践紹介



「Take Time」 1週間に2回、8:15～25の時間にゲームを通じて英語力アップに取り組んでいます。



「スイッチオンタイム」 1週間に1回、8:15～25の時間に体力づくりに取り組んでいます。



「資源回収」 地域の方々に協力していただき、資源回収に取り組んでいます。(小学校と共同行事)



「先輩に学ぶ」地域で活躍されている方にお話を聞いていただき、自分たちの生き方や将来に対する考えを深めることを目的としています。今回は、杉浦一生さん(湯の元温泉旅館 経営)にご来校いただきました。

岡山萱野小中一貫教育の概要

1. 研究主題

「自ら学び、考え、行動できる

人間性豊かな児童生徒の育成」

「つなぐ」小中一貫教育をめざしていく

2. めざす子ども像

○確かな学びのもと、豊かな発想や表現ができる。

○個性を生かしつつ、互いの良さを認め、

高め合うことができる。

○自ら考え、行動できる。

3. 研究期間

第6期2年計画の2年次

4. 今年度の実践について

①9年間を見通した系統性のある学習の

きまりの掲示・実践(Ⅰ～Ⅲ期)

②課題・まとめの提示と囲み線の統一、ふ

りかえりの実践

③小中合同研修会の充実

5月：「主体的・対話的

で深い学び」とは

7月：ピアサポート研

修会

10月：授業スタイル・授

業改善に関する研修会

①2月：授業スタイル・授

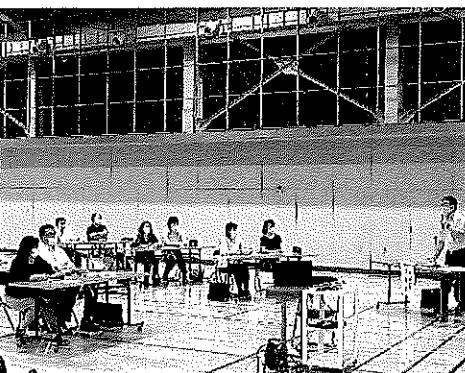
業改善に関する研修会

②4月：部会研究(家庭学習部会・体力向上部会)

今年度は小中合同研修の機会を増やし、

小中の教員が共に学び合える場を設定し

た。



ピアサポート研修会の様子

岩見沢市教育委員会から田中佳樹先生をお招きし、ピアサポートの実技研修会を実施した。また、10月、2月と北海道文教大学教授石垣則昭先生をお

7月には

招きし、授業スタイル・授業改善について、日々の実践にすぐに役立つ研修を進めている。

今年度で第6期計画のまとめとなるが、

3年生の姿を共有しながら一つ一つできることを形にしていきたいと考えている。

【令和2年度 三笠市教育振興会指定校研究大会】

今年度は、例年ない形での実施となつたが、当日は助言者の方にお越しいただき、予定していた3教科の授業公開を行つた後、校内研修の中で研修を深めることができた。

今年度本校では、「単元計画」を軸に次の2つを重点に授業改善に取り組んでいる。

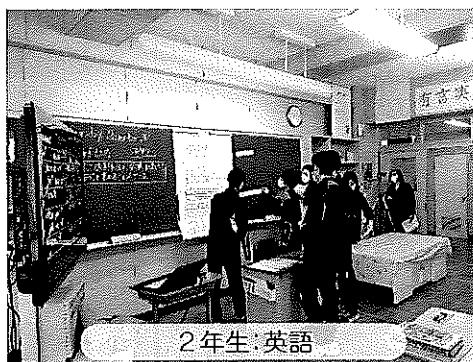
①深い学びに向かうための工夫について
②コミュニケーション能力の向上に

研究授業以外にも、校内で授業交流週間

を設け、お互いの授業を参観し合いながら授業改善に活かしている。

また今年度は、指導案の本時案を「三笠スタイル」の形式に統一した。「明確な課題設定」「個人思考」「集団思考」「まとめ」「ふりかえり」を授業の中に位置づけ、教科を

超えて授業スタイルの共有化を図つていいアクティブラーニングになる授業づくりに全員で取り組めていることは、大きな成果と言える。



公開授業の様子

三笠中学校 地域科実践紹介 桑原聰恵

三笠中学校では、小学校から系統立てて取り組んでいる「地域科」として、1年生は「三笠の文化を学ぶ」、2年生は「ジオパーク解説員になろう」という学習を行っています。

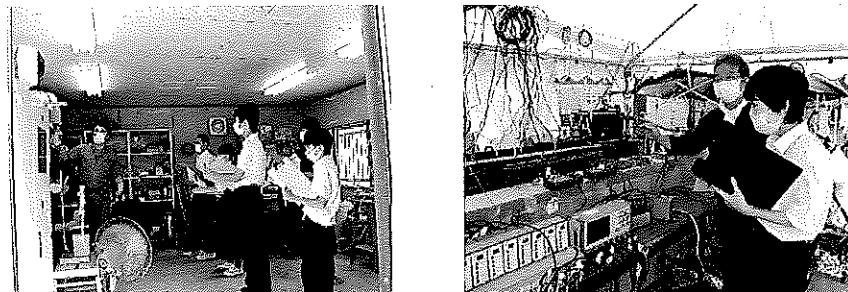
1年生は例年、7月に三笠甚句の会のみなさんに盆踊りを教えてもらったり、旭川にある北海道地図株式会社を訪問したりしていました。しかし、今年度は新型コロナウイルスの関係で、盆踊りは中止、旭川訪問は10月に延期しての実施となりました。旭川の北海道地図株式会社訪問では、印刷工場の見学、ロビー見学、ソニーテレプレゼンスシステムによる遠隔授業を体験させていただきました。北海道に1台しかないという大型の印刷機や、三笠を舞台とした宝探しゲーム、VR体験などどれも生徒の興味を引くものばかりでした。特に遠隔授業では、島根県の隠岐世界ユネスコジオパークと中継を結び、ゲームを取り入れながら楽しく隠岐の紹介をしていただきました。見学後は、パソコンを使ってレポートを作成し、学年内で発表会を行いました。

また、8月には幾春別にある室蘭工業大学三笠未利用石炭エネルギー研究施設を見学させていただきました。例年は2年生で見学させてもらっていましたが、カリキュラムを編成し今年度より1年生で見学させていただくことになりました。(今年度に限り、2年生も見学しました。)地下にある石炭をガスとして取り出して利用するという日本で唯一の研究を行っている施設ということで生徒達はとても興味を持って見学していました。

2年生については、例年通り三笠ジオパーク推進委員のみなさんのご協力のもと、小学校とも連携して、実際に現地に赴き小学校6年生に野外博物館の解説をしました。今年度は天候に恵まれず雨と格闘しながらの取り組みとなりましたが、小学生にもわかりやすいようにと工夫しながら生徒達は一生懸命に取り組んでいました。この度の解説を聞いた小学生が2年後に今度は自分たちが解説をする立場になるということで、この取り組みは小中の伝統としても引き継がれています。



北海道地図株式会社(旭川市)



室蘭工業大学研究施設(幾春別)



野外博物館(三笠市博物館)

岡山小学校5年生地域科の授業より ~化石採集~

5年担任 大崎竜一

◆◇9月30日(水曜日)◆◇

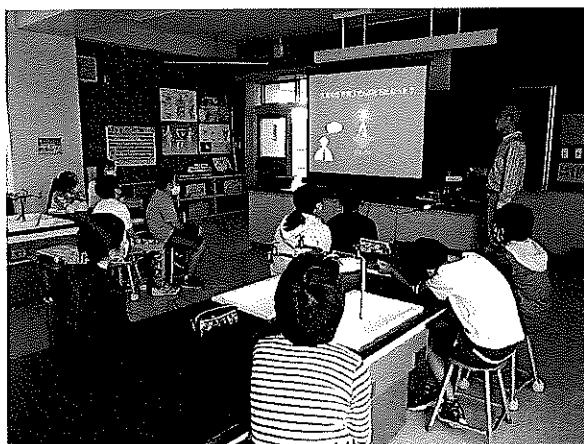
この日の地域科の授業のために、市立博物館の加納館長をお招きしました。内容は、化石についての講義です。その定義やでき方の話を、5年生13名は興味深く聞くことができました。その後は、何種類もの化石の実物を見て、何の化石かを考えました。見るだけではなく、触ったり匂いを嗅いだりすることもできます。レベルの高い難しい問題もありましたが、楽しい時間を過ごすことができました。

この次の週は、実際に化石採集をするのですが、この授業で子ども達の期待が更に高まりました。心配なのは天気だけ…と思いました。

◆◇10月7日(水曜日)◆◇

前日の火曜日は天気が怪しかったのですが、水曜日の予報は「晴れ」、バスに乗る前は太陽が顔を出していました。この日はまず、博物館で加納館長から中生代白亜紀の生物について説明を受けました。展示ケースの鍵を開け、貴重な化石を直に感じることもできました。前回といい今回といい、本当に貴重な経験ばかりです。

その後は、桂沢覆道の上を歩いて採集現場に行きました。かわいい鹿が2頭がいて、少し驚きました。探し始めてから少しすると、雨が降り始めました。「すぐに止むだろう」と思ったのですが、雨脚は更に強くなりました。作業を一時中断し少し雨宿りしたら、雨が弱まったので再開です。うまく見つけた子、苦労した子と様々でしたが、欠片を見て、それが何かを教えてくださる加納館長がいることの贅沢さは、全員が味わうことができました。とても有意義な1日で、「是非、また！」と思わずにはいられませんでした。



雪深い冬の季節となりました。今は新型コロナウイルスの影響により変更を余儀なくされた行事が多く、今後も予断を許さない状況です。

今号の『教育三笠』では、今年度の岡山萱野小中一貫教育研究の取組や各校における地域科の実践を紹介しました。担当の方々には、お忙しいなか原稿をお寄せいただきましたことに感謝申し上げます。

次号は、三笠市教育研究所の研究課題報告を中心にお伝えする予定です。引き続き、研究所へのご協力をお願いいたします。

編集後記

三笠市教育研究所所報
発行日 令和2年12月24日
発行所 三笠市教育研究所
代表 松井牧子

電話 22197404
中央印刷株式会社
三笠市若草町40番4
郵便番号 700-0040

印刷所	三笠市若草町40番4
発行日	令和2年12月24日
発行所	三笠市教育研究所
代表	松井牧子